

<プロフィール>

■上田 益(うへだ・すすむ) 作曲家、サウンド・プロデューサー



大阪生まれ。

京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。廣瀬量平氏に師事。京都音楽協会賞受賞。

1980 年度文化庁芸術家国内研修員に選出され、東京において研鑽を積む。

1982 年、関西での本格的な活動を開始し、以後 1994 年秋に拠点を東京に移すまで、クラシック音楽の演奏家からの委嘱により、数多くの作品を発表。また自らも作品展を2度開催する。

1989 年、福井市制 100 周年記念式典の音楽を担当。

1994 年、広島アジア競技大会「開会式」「閉会式」のパフォーマンス音楽を担当。この年の秋に、創作活動の拠点を東京に移す。

1998 年、長野オリンピック・公式楽曲「WINTER FLAME」を作曲。

1999 年、神戸ルミナリエ会場演出用の音楽を担当。以後毎年ルミナリエのための作曲を現在まで続けているほか、2005 年からは阪神淡路大震災の犠牲者のための「追悼コンサートいのりのとき」を神戸市内で毎年無料で開催。2008 年より 2 年がかりで、震災から 15 年となる 2010 年 1 月 17 日に向けた「レクイエム・プロジェクト」を神戸で実施し、その活動の輪は「大切ないのちへの思い」をテーマに、神戸および東京、沖縄、長崎、兵庫県佐用町、広島、仙台、福島、北いわてなど自然災害や戦争で傷ついた地域に広がり始め、東日本大震災被災地でも活動を行っている。

その他 NHK テレビの番組用音楽をはじめ、「1 リットルの涙」「黒革の手帖」などのテレビドラマ、アニメ、イベントなど様々なジャンルにおける創作活動を行なっている。

2006 年には世界遺産に指定された高野山のある高野町の委嘱により、時を告げるサウンド・デザインを行なう。また同年、臨床心理学者で当時の文化庁長官であった故河合隼雄氏と「心の音楽処方箋」というクラシック音楽の CD を制作し、ヤマハ・ミュージックコミュニケーションズよりリリース。

また、イラナ(馬頭琴)、鶯と燕(中国琴)など中国の若いアーティストの育成や、中島啓江(ソプラノ)、幸田さと子(ヴァイオリン)、ジャン・ティン(中国琵琶)など、民族楽器やクラシック系を中心にサウンド・プロデューサーおよび楽曲提供を精力的に行う。2008年8月 27 日には二胡のチェン・ミン、ヴァイオリンの金子飛鳥など、著名なミュージシャンが参加した自身6枚目となる最新のセルフプロデュースアルバム「そらとうみのあいだ」をリリース。このほかメジャーレーベルからリリースされた60タイトル以上の CD 作品を手がけている。

合唱作品も多く、「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」、混声および合唱組曲「黙礼」、混声合唱組曲「遙かなる海へ」、女声合唱組曲「いのちのまなざし」、女声合唱のための「4 つの愛のうた」が、カワイ出版や全音楽譜出版から出版されている。

上田益公式ホームページ: http://homepage3.nifty.com/s_ueda/